

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270300700		
法人名	医療法人 謙昌会		
事業所名	グループホームあんずの家(ユニット2)		
所在地	〒031-0813		
自己評価作成日	令和 2年11月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日			

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内に掲示し、全スタッフがいつでも理念を念頭に置き、共通意識をもって日々のケアを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、敬老会や夏祭りに参加したり、ホームの交流会に地域の方々を招くなど、日常的に地域の方々と親睦を深め良好な関係作りに努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の相談所として、地域の方々の相談に応じたり、高齢者支援センターの見守り活動(会議)に参加している。又、地域の小学生職業体験を受け入れ、高齢者との関わりや学びの機会を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご家族や地域の方にも参加して頂き、オンブズマン報告や行事報告、近況報告、満足度調査の結果等を報告し、それらに対する意見や助言を頂き、より良いサービスにつなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者にも運営推進会議に参加して頂き、近況報告や情報交換をしている。必要時には相談しながら良好な関係を築けるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないという方針の下、身体拘束排除のマニュアルを整備し、職員全員の共通理解を図り、工夫しながら拘束しないケアに努めている。防犯上、玄関の施錠はしているが、外出等は自由にして頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会(研修)を行い高齢者虐待防止法についての理解を深め、虐待防止の意識付けをしている。不適切なケアに繋がらないよう、日々のケアを振り返り、職員同士注意を払いながら虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で権利擁護に関する勉強会を開催し、制度について学び、必要時には活用できるよう理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約、改定等の際は、重要事項説明書に基づき、丁寧に説明を行ない、不安や疑問点を取り除きながら理解、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誰でも意見や要望を自由に投函して頂けるよう玄関にご意見箱を設置している。又、毎月オンブズマンの来訪があり、気付きや入居者の方の訴え等を伝えて頂いたり、運営推進会議での意見や提案を受け止め、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は日頃から聞く体制にあり、相談しながら運営に反映させている。会議に出席できない場合は事前に意見を求め、一人一人の意見を聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務能力評価を行い個人の能力や実績を把握し、給与に反映させている。又、研修への参加や資格取得へのサポートを行い、スキルアップの機会を提供している。個々の事情に考慮した勤務体制を整え、業務改善を行いながら働きやすい環境づくりをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務能力評価で職員一人一人の力量を把握し、全職員が法人内の研修やe-ランニングシステムを活用した研修を受けることが出来るようにしている。又、ホーム内でも勉強会を開催し、職員の理解を深めるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の一員として、研修会や総会に参加し、他事業所の方々との交流を持ち情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に入居体験や面談を行い本人の不安や要望を確認、把握し、入居後は不安の軽減、解消に努め、要望に沿えるよう支援している。安心感を持ってもらえるよう関わりやコミュニケーションを密にし、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時、家族が抱える不安や要望を伺い、出来るだけ不安解消や意向に沿う支援をし、信頼していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族がどのようなサービスを必要としているのかを見極め、状況や状態に即した支援が出来るよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場として家事等に参加して頂き、一緒に行うことで入居者と職員の垣根を作らず、共に暮らす仲間として助け合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子や体調等をご家族へ報告し、相談しながら、本人にとって良い方向性を一緒に考え、必要時には協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切に思っている友人や仲間、通っていた場所等を把握し、交流の場や外出の機会を設けている。又、居室に写真やはがき等を飾ることで忘れないための支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性や性格等を把握した上で、互いに支え合えるような席の配置にしたり、入居者同士が交流出来る場を設け、職員が仲介しながら良い関係性が築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、本人やご家族の相談に応じ、新しいサービスを利用する際には必要な情報提供を行いながら本人やご家族のフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子や会話の中からその時々希望や意向を把握し、出来るだけ本人の思いに沿って支援するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、関係機関からの情報の他、日々の会話から、これまでの暮らしを把握し、知り得た情報を職員間で共有し、ケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの様子や言動等、記録に残し、職員間で情報を共有すると共に、申し送り等でその時々心身状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向、リハビリ職員や主治医の意見を基に介護計画を作成し、必要な関係者と定期的に話し合い、評価しながら次のプランへ繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケア内容、新たな気づき等を記録に残し、職員間で申し送り、情報共有を図ると共に介護計画の評価、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の医療機関やデイサービスの協力を得ながら体調不良時の受診介助や急な外出、ご家族からの相談等に柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	祭りや敬老会等の地域の行事に参加したり、個々の希望や思いに添い、馴染みの美容院、趣味のカラオケ、お店での買い物等、必要に応じて活用しながら楽しい暮らしが送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望する医療機関を受診していただいている。本人の状態や変化をご家族や医療機関に伝え、適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日状態の観察をし、いつもと違う様子が見られた時は、看護職員に報告、相談し、早めの受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は医療機関に必要な情報を提供し、入院中も定期的に情報交換を行いながら、早期に退院できるよう取り組んでいる。又、日頃から医療関係者と情報交換を行い、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合の対応について、ホームの指針を伝え、ホームで出来ること、出来ないことの説明をし、本人やご家族の意向を確認している。入居者の健康状態や変化をご家族や主治医に報告し、相談しながら、その都度方針を確認し、対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の事故や急変に備え、マニュアルを整備し定期的に研修を開催し、実践に活かせるようにしている。又、協力病院やかかりつけ医等の協力でいつでも相談できる体制が整っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、昼夜を問わず安全に避難出来るようにしている。又、緊急連絡網を作成し、地域の方の協力が得られる体制が整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を損なわないように、研修で学んだことを活かし言葉使いや態度に注意し対応している。特に排泄や入浴時など、不快な思いをさせないように配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気兼ねなく自分の思いや希望を伝えやすいような雰囲気作りを行っている。物事の決定をする際は分かりやすい説明と選択方法を工夫するなど意見を引き出せるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など一日の流れはあるが、個々の体調や気分に応じて臨機応変に対応し、希望に添えるよう努めている。又、本人のペースで快適に過ごせるよう意思確認をしながら援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温、外出等、その時々に応じた服装を本人と相談しながら選択して頂いたり、出来ない方には本人の視点で職員が選択し、快適で清潔な身だしなみやおしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを把握し、食事が楽しみとなるよう旬の食材を取り入れたり、彩りや盛り付けを工夫し食事を提供している。又、入居者自身が調理する機会を設けたり、後片付けを一緒に行うなど個々の力を発揮して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせ、食事形態や量、味付けに配慮し提供している。水分も、様々な種類の飲み物を用意し、楽しみながら水分補給が出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの口腔状態に合わせたケア用品を使用し、毎食後ケアを実施している。自力で出来る場合でも職員が見守り、磨き残しや異常が無いかチェックし、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日の排泄チェックからパターンを把握し、本人のサインを見逃さないようにし、トイレ誘導している。使用するオムツもその方の動作レベルに合わせ、快適で使いやすいものを使用することで、失敗の減少、排泄の自立を目指している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	自然排便を目指し、積極的な水分補給と適度な運動を勧め、食物繊維の多い食材、乳製品等を取り入れた食事を提供している。又、便秘傾向の方には腹部マッサージを行うなど、便秘予防、改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回を目安に入浴していただいているが、その日の体調や気分、外出予定などに合わせ、時間の調整や日時の変更を行っている。一人一人の希望に柔軟に対応し、気持ちよく入浴できるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調、生活リズムなどに配慮しながら、本人が安心して休めるよう、自室やホールソファなどその時々に応じて休んで頂いている。又、就寝前はゆったりと寛いで頂き、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬の情報用紙をいつでも確認出来るように保管している。確実な服薬支援を行うために、薬の二重チェックや服薬の確認を行い、症状の変化に注意し、変化が見られた時は随時、主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ等、個々の力を活かした役割を行って頂き、感謝を伝えることで、喜びを感じて頂けるようにしている。又、カラオケや買い物、クッキングなどの行事で好きなこと、得意なことに取り組み、楽しむ機会を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時に散歩や買い物に出かけ、気分転換を図っている他、行事として、地域の敬老会やお祭りに参加するなど、地域の方々に協力して頂きながら、外出出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理を希望する方には、ご家族と相談し小額のお金を所持して頂いている。自己管理が困難な方にも買い物外出の機会を設け、お金に触れ、支払いをすることで社会性を維持することが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでもやり取り出来るようにしている。電話の際は、周囲の音や落ち着ける場所等に配慮している。入居者の中にはご家族との電話が日課になっている方もいて、家族や知人との繋がりを大事にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の温度、湿度は毎日、定期的にチェックし、快適に過ごせるように調整している。季節の花や行事の写真、壁飾り等で季節感のある装飾をすることで居心地良く過ごせるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファや椅子を設置し、一人で自由に寛いだり、外の景色を眺められるようにしている。テーブル席は気の合う入居者同士でテーブルを囲めるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談しながら家具を配置したり、使い慣れたものを持参して頂き、本人が居心地良く過ごせるようにしている。又、居室の雰囲気作りとして写真や手作りの作品などを飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の能力を把握し、トイレや居室に分かりやすい目印や名前を表示している。又、廊下やトイレに手すりを設置し、動線上の環境整備を行い安全に出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		